

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
麻生医療福祉 専門学校福岡校	平成9年2月13日	竹口 伸一郎	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
目的	介護福祉士受験資格取得及び社会福祉士国家試験受験資格取得(実務経験要1年)のための指定科目履修を行い、高い専門性を有した福祉専門職の養成を行なう。また、独自の人間力向上のためのGCB教育を柱に、向上心と協調の精神をもって広く社会福祉に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
教育・ 社会福祉	介護福祉専門課程	ソーシャルワーカー科	平成16年文科科学大臣 告示第17号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2962	1970	360	632	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
120 人	40 人	4 人	20 人	24 人			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎4段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価			
長期休み	■夏季:7月30日～8月28日 ■冬季:12月24日～1月9日 ■春季:2月21日～4月9日		卒業・進級 条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.学生としてふさわしい生活態度			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 ガイダンスの実施。学科責任者との面談、 三者面談の実施。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有			
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 介護・社会福祉分野 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 93.8 % ■その他 (平成 28 年度卒業者にに関する 平成29年4月1日 時点の情報)		主な資格・ 検定等	社会福祉主事任用資格 介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉士国家試験受験資格(実務経験要1年)			
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 平成28年4月1日時点において 在学者 46名 平成29年3月31日時点において 在学者 44名 ■中途退学の主な理由 進路の変更 ■中退防止のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。		中退率	4.3 % (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者をを含む)			
ホームページ	URL: <a href="http://www.asojuku.ac.jp/amfc/">http://www.asojuku.ac.jp/amfc/</a>						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働大臣指定 介護福祉士養成専門課程として、福祉業界が求める、より現場の実践に即した技術を修得することを中心としたカリキュラムを編成している。また、社会福祉主事資格取得及び社会福祉士国家試験資格(実務経験1年要)のカリキュラムも同時並行にて履修していくので、介護福祉領域のみならず、社会福祉領域もホリスティックにカバーできる、より高度な専門職としての知識及び技術を習得する。

特に実習においては、厚生労働省による指定規則に則った要件を満たす施設および指導者と連携・調整を図りながら、常に効果的な実践教育を行っている。また、実習終了後には、実習施設の指導者と意見交換を交わして本校教育にフィードバックし、科目編成に活かしている。

その他、就職先に対して実施する「お客様アンケート」により、現場のニーズを把握して、求められる福祉人材の育成を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
大庭 欣二	社会福祉法人 シティ・ケアサービス 管理本部 本部長	平成29年4月～30年3月	③
江川 順一	特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～30年3月	③
桑原 由美子	NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしっぶ 理事長	平成29年4月～30年3月	③
武田 聡	NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ 施設長	平成29年4月～30年3月	③
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～30年3月	②
松尾 智子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 研修委員	平成29年4月～30年3月	①
今村 浩司	北九州地区 精神保健福祉士協会 会長	平成29年4月～30年3月	①
竹口 伸一郎	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長	平成29年4月～30年3月	
上野 慎輔	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行	平成29年4月～30年3月	
山下 和美	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行補佐	平成29年4月～30年3月	
前田 浩明	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任	平成29年4月～30年3月	
案納 賀世子	麻生医療福祉専門学校福岡校 ソーシャルワーカー科 リーダー	平成29年4月～30年3月	
川原 ゆり	麻生医療福祉専門学校福岡校 社会福祉科 リーダー	平成29年4月～30年3月	
小副川 賢治	麻生医療福祉専門学校福岡校 福祉心理学科 リーダー	平成29年4月～30年3月	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

3回

(開催日時)

第1回 平成28年6月25日(土)13:00～14:00

第2回 平成28年11月11日(金)16:00～18:00

第3回 平成29年3月3日(金)16:00～18:00

(開催日時 予定)

第1回 平成29年6月24日(土)13:00～14:00

第2回 平成29年11月10日(金)16:00～18:00

第3回 平成30年3月2日(金)16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

30年度カリキュラム変更に向けての教育プログラムを再構築(メディカルソーシャルワーカーをめざす学生に必要な不可欠な知識等について)するために必要な科目やカリキュラムについて、本学科提案資料に基づいて助言及び指導をいただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科では、「介護福祉実習」「社会福祉現場実習」を行うにあたり、平素より実習施設との有機的な連携をもとに、カリキュラムを編成している。各実習では、個別ケアの必要性を熟知して、利用者理解と根拠に基づいた介護・福祉を実践することを目的として、「個々人に適した支援技術を提供できること」「個別支援計画の実践ができること」を実習の目標としている。これら、目的・目標についての意識を統一するために、実習施設および施設指導者、担当教員は常に情報を共有し合い、意見交換をしながら効果的な教育を目指す。

さらに、演習においては、可能な限りフィールドワークを実施し、現実生じている事象から学習を深めていくことを重視していく。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習実施前に、施設担当教員と実習指導者が打ち合わせを行い、実習計画や内容、実習概要について協議・調整を行う。実習期間中は教員が巡回及び帰校日指導を行い、実習の進捗状況を確認し、個別指導を強化する。実習終了後は学内で報告会を開催。その際は実習指導者に参加していただき、より実習での学びや気づきを深化させる。

### (3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ-A	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。	シテイケア博多 おあしす長丘 アップルハート金山デイサービスセンター わくわくらんど
介護実習Ⅰ-B	実習ⅠAの延長として、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。また、次年度に実施する実習Ⅱ（介護過程の展開）に向けての課題を見つける。	シテイケア博多 おあしす長丘 アップルハート金山デイサービスセンター わくわくらんど
介護実習Ⅱ	介護福祉実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な職種の仕事について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。	光薫寺ビハーラ ちづる園 シテイケア博多 シテイケア長住 月隈愛心の丘
介護実習Ⅲ	個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習する。	光薫寺ビハーラ ちづる園 シテイケア博多 シテイケア長住 月隈愛心の丘
在宅介護実習	利用者や家族の生活状況、利用者の全体像を理解し、介護福祉士のかかり方について学ぶとともに、在宅訪問時の基本的知識と技術・態度について理解を深める。	大野城市社会福祉協議会 ケアステーションにしこう博多 ケアステーションにしこう博多南 ケアステーションにしこう城南 飯塚市社会福祉協議会
社会福祉援助技術実習	国家資格である社会福祉士の受験資格取得に向けて、高齢者施設において相談援助の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	ワークショップたちばな セルブちくほ えがおでケアプランサービス なのみ工芸 仁風園

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

専門分野に関しては、介護福祉教育学会及び日本介護福祉学会に正会員として加盟しており、毎年行われる学会や諸発表会には必ず参加する。また、教員による学会発表も経験や力量に応じて行う。

また、日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、ハンセン病市民学会等に加盟する教員が複数おり、その専門領域で深めた見識を他教員と共有する勉強会も学内で実施する。

授業および学生に対する指導力等の修得・向上に関しても、本校の教職員研修規定に則って、教員の経験・スキル・目標に応じた研修が、組織的かつ計画的に行われている。

なお、これらの研修に参加した教員は、研修を通じて修得した知識・技能等について、他教員と共有するために学内の勉強会において随時発表する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

日本介護福祉士養成施設協会 定時総会 平成28年5月27日

日本介護福祉士養成施設協会 九州ブロック研修会 平成28年10月14日～15日

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 「インプレッショントレーニング®」 平成29年2月

(概要)印象力向上を目的として、教育現場や対外的な活動の場で活用するためのインプレッショントレーナーによる研修。

2. 学生支援研修 平成29年2月

(概要)共感的理解からはじまる支援の実際を中心に、生徒支援に定評のある高等学校の校長による研修。

3. インストラクショナルデザイン研修 平成28年9月

(概要)教職員として、教育力・指導力の向上を図る研修。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

日本介護福祉士養成施設協会 全国教員研修 平成29年11月19日～21日

日本介護福祉士養成施設協会 九州ブロック研修会 平成29年9月21日～22日

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 退学防止研修:平成29年8月21日

2. 教育コーチング研修:平成29年8月22日

3. 教員フォローアップ研修:平成29年8月24日

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2)学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。
(3)教育活動	・学科の教育目的、育人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みをしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取り組みをしているか
(4)学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。
(5)学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6)教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8)財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。
(9)法令等の遵守	・学科の教育目標、育人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為のシステムが構築がされているか。
(10)社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

卒業生及び施設等委員より、福祉人材の確保と卒業後の離職防止に向けた取り組みについての示唆があり、法人全体の組織としてよりも、学校単位・学科単位での取り組みに期待しているとの意見が挙げられた。福祉人材の不足は、福祉を目指す本校学生数の減少とも密接に繋がっており、企業や地域、職能団体とのつながりを強めていく方向性を共有することができた。学外の委員より、客観的な視点で評価をもらい、改善に向けて取り組む意義について教職員で共通認識を持つことができる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
玉ノ井 敏子	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員

渡辺 裕子	(福)幸府福祉会 すみれ園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしっぶ 理事長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
武田 聡	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
江川 順一	福岡福祉向上委員会 代表	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
大庭 欣二	(NPO)木もれ日 カフェ ヒュッテ 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～平成31年3月	その他
松尾 智子	(公社)福岡県介護福祉士会 研修委員	平成29年4月～平成31年3月	その他
大山 和宏	(一社)北九州地区 精神保健福祉協会 会長	平成29年4月～平成31年3月	その他
潮田 大介	(有)ケンルック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院 事務次長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
池田 典生	(一財)日本医療教育財団 福岡支部長	平成29年4月～平成31年3月	その他
熊谷 智彦	久留米学園高等学校 校長	平成28年4月～平成30年3月	高校関係者
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役	平成29年4月～平成31年3月	地域住民
中島 文香	こども未来学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
野上 祐子	社会福祉科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
蒲池 桂子	福祉心理学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
木下 典子	医療秘書科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
塚本 のり子	医療情報科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
所崎 あすか	診療情報管理士科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
児玉 諒	心理カウンセラー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
池上 幸子	介護福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
大本 葉	医療秘書科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 8月

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取り組み
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績、内定実績
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職進学サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6)学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7)学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、校納金特別免除制度
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/>

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(介護福祉専門課程 ソーシャルワーカー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人間の尊厳と自立	人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。	1前	30		○			○		○		
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。	1前	30		○	△		○		○		
○			保健体育・レクリエーション	社会福祉事業従事者にとっての保健の概念と保健の意義を理解させるとともに、レクリエーション活動の社会的意義を理解させる。	1通	60		○	△		○		○		
○			介護概論	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理を通して理解する	1通	60		○			○		○		
○			介護福祉各論	介護実践は介護を必要とする人を“生活をする人”として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、個別性を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す	1通	60		○			○		○		

○			コミュニケーション技術Ⅰ	介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。	1前	30		○	△		○		○					
○			生活支援技術・基本Ⅰ	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。	1通	90		○	△		○		○					
○			生活支援技術・応用Ⅰ	利用者個人の尊厳を保持しながら利用者が主体的に生活できるよう支援する視点を学ぶ。	1後	30		○	△		○		○					
○			介護過程総論	①介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる②他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開することができる。③介護計画の立案により、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。	1後	30		○			○		○					
○			介護過程各論Ⅰ	①生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。②介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る。	1後	60		○	△		○		○					
○			介護総合演習Ⅰ	①介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けなどを行う。②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。	1通	60					○		○		○			
○			介護実習Ⅰ-A	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。	1前	40					○		○		○		○	○

○			介護実習 I-B	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。	1 後	80					○		○	○	○	○	○	
○			医学一般	①心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。	1 前	30					○		○			○		
○			保健医療サービス	①相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。②保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。	1 後	30					○		○			○		
○			認知症の理解	①医学的側面から見た認知症に関する基礎知識を習得する。②認知症に伴うこころとからだの変化と特徴的な心理行動、及び対応について学ぶ。③本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	1 通	60					○		○		○			
○			からだのしくみ I	介護技術の根拠となる人体の構造や機能について学ぶ。	1 通	60					○		○		○			
○			心理学	①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する②人の成長・発達と心理との関係について理解する③日常生活と心の健康との関係について理解する④心理的支援の方法と実際について理解する	1 前	30					○		○			○		
○			障害者福祉論	①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。②障害者福祉制度の発展過程について理解する。	1 通	60					○		○			○		



○			社会福祉援助 技術論Ⅰ	①社会福祉士および精神保健福祉士の意義と役割について理解し、相談援助専門職概念について学ぶ。②相談援助の形成過程・理念と範囲・専門職の倫理について理解する。	1 通	60				○			○			○	
○			社会福祉概論 Ⅰ	福祉の原理・哲学を学び、現代の福祉政策や福祉制度の成り立ち及び理念を理解する。	1 後	30				○			○				○
○			社会福祉概論 Ⅱ	社会福祉概論Ⅰを土台として、既存の社会福祉制度や政策について、課題や問題点等を整理することができる視点を涵養する。	2 前	30				○			○				○
○			社会福祉援助 技術論Ⅱ	①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。②相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する	2 通	120				○			○				○
○			コミュニケーション 技術Ⅱ	①様々な障害を持つ人に対して、障害特性に応じたコミュニケーションの方法を習得する。②介護におけるチームコミュニケーションの意義と方法を習得する。	2 前	30				○			○				○
○			生活と住環境	介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで生活の楽しさや生活の支障の解決について分かち合うことができる。	2 前	20				○			○				○
○			家庭生活	介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための家庭生活をすることで生活の楽しさや生活の支障の解決について分かち合うことができる。	2 後	40				○	△		○				○

○		生活支援技術・基本Ⅱ	基本Ⅰをふまえて、生活支援にICFの視点にもとづいた利用者の生活支援ができるようになることをめざす。そのために必要な、介護技術・援助方法の習得をめざす。	2後	30		○	△	○	○							
○		生活支援技術・応用Ⅱ	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行なえるようになる。	2通	90		○	△	○	○							
○		介護過程各論Ⅱ	①実習体験の事例を通して、介護過程を理解する。②介護過程を通して、チームアプローチの重要性を理解する。	2通	60		○	△	○	○							
○		介護総合演習Ⅱ	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。	2通	60			○	○	○							
○		障害の理解	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	2通	60		○		○								○
○		からだのしくみⅡ	Ⅰをふまえ、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。	2前	30		○		○								○
○		介護実習Ⅱ	介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な職種役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。	2前	160				○		○	○	○	○	○		○

○			在宅介護実習	①在宅で生活する方の、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、生活の場における個別ケアの実際を学ぶ。②他職種協働や関係機関との連携を通じてチームケアの重要性を体験する。	2通	12					○		○	○	○	○	○
○			介護実習Ⅲ	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	2後	160					○		○	○	○	○	○
○			社会福祉現場実習指導Ⅰ	相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について理解する。	2後	30					○		○		○		
○			社会福祉援助技術演習Ⅰ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術。理論について学ぶ。	2後	30					○		○		○		
○			経済学	①現代経済の基本概念を理解する。 ②市場機構の限界と政府の役割について理解する。	2後	30					○		○		○		
○			ボランティア活動法	ボランティア活動における実際を知り、実践へとつなげていくための技術を習得し、ボランティア養成における指導方法の理解を目指す。	2前	30					○	△		○			○
○			医療的ケア	喀痰吸引・経管栄養の定義および手技等が理解でき、その対応に必要な人間の尊厳や利用者理解を知ることで介護福祉士としての役割を学ぶ。	2通	50					○	△		○		○	△

○			社会学	人と社会の関係や社会システムを理解し、現代社会の様相を捉える。また、種々の社会問題について理解する。	3 前	30				○			○						○
○			社会保障論	社会保障の理念を発達過程を含めて理解する。また、種々の社会保障制度の概要、年金保険制度と医療保険制度の具体的内容、諸外国の社会保障制度の概要を理解する。さらに、現代の課題を捉える。	3 通	60				○			○						○
○			法学	日本国憲法の基本原理・民法・行政法を踏まえ基本的権利について学ぶ。成年後見制度の実際と社会的排除や虐待など権利侵害に対する相談援助活動の実際を学ぶ。	3 後	30				○			○						○
○			地域福祉論	①地域福祉の主体と対象を捉え、基本的概念と理念を理解する。地域福祉に関わる組織、団体、専門職の働きを理解する。②ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発について、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの方法等を学ぶ。	3 通	60				○			○						○
○			社会福祉施設 経営論	福祉サービスに関わる組織や団体について理解する。また、組織と経営に関わる基礎理論を学ぶ。	3 通	60				○			○						○
○			児童福祉論	児童・家庭の生活とニーズを捉える。児童の権利保障の概念を理解する。さらに、児童・家庭福祉に関わる法制度を理解し、相談援助活動の実際を学ぶ。	3 前	30				○			○						○
○			家庭福祉論	児童・家庭の生活とニーズを捉える。現代社会における家庭福祉の理念と意義を理解する。さらに、児童・家庭福祉に関わる法制度を理解し、相談援助活動の実際を学ぶ。	3 後	30				○			○						○



○		社会福祉援助技術演習Ⅱ	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識や技術及び理論をロールプレイング等を通じて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3通	120				○	○	○			
○		社会福祉現場実習指導Ⅱ	社会福祉現場実習指導Ⅰを土台として、相談援助技術の専門性を知識、技術、価値の側面から理解した上で、実務的な知識をさらに涵養し、具体的かつ実践的な技術等を体得する。	3通	60				○	○	○			
○		社会福祉現場実習	①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	3後	180					○	○	○	○	○
合計				57科目	2962単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>(卒業要件) 履修すべき科目及び実習に係る出席時間数が指定規則に定める時間数に満たないものについては、当該科目に履修認定をしない。 最終学年の終了時において、履修認定を受けられない科目が2科目以下の場合には、卒業を延期する。この場合当該科目を次年度に再履修し、履修認定を受けた後卒業を認める。</p> <p>(履修方法) 科目の履修、単位の認定は学科試験、実習評価及び日常の学習状況をもって行なう。 学科試験は定期試験及び随時試験とし、実習の評価は、実習評価基準に基づき行う。 出席時間が所定時間の3分の2（但し、介護実習については100%）に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。 学習の評価は各科目について100点満点とし、60点以上を合格点とする。 学習の評価が合格点に満たない者は、授業科目について再試験を受ける事ができ、又実習については補習を行い、再評価を受ける事ができる。 疾病その他、やむを得ない理由により試験及び実習を終了しなかった者は追試験及び補習を受けることができる。</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。